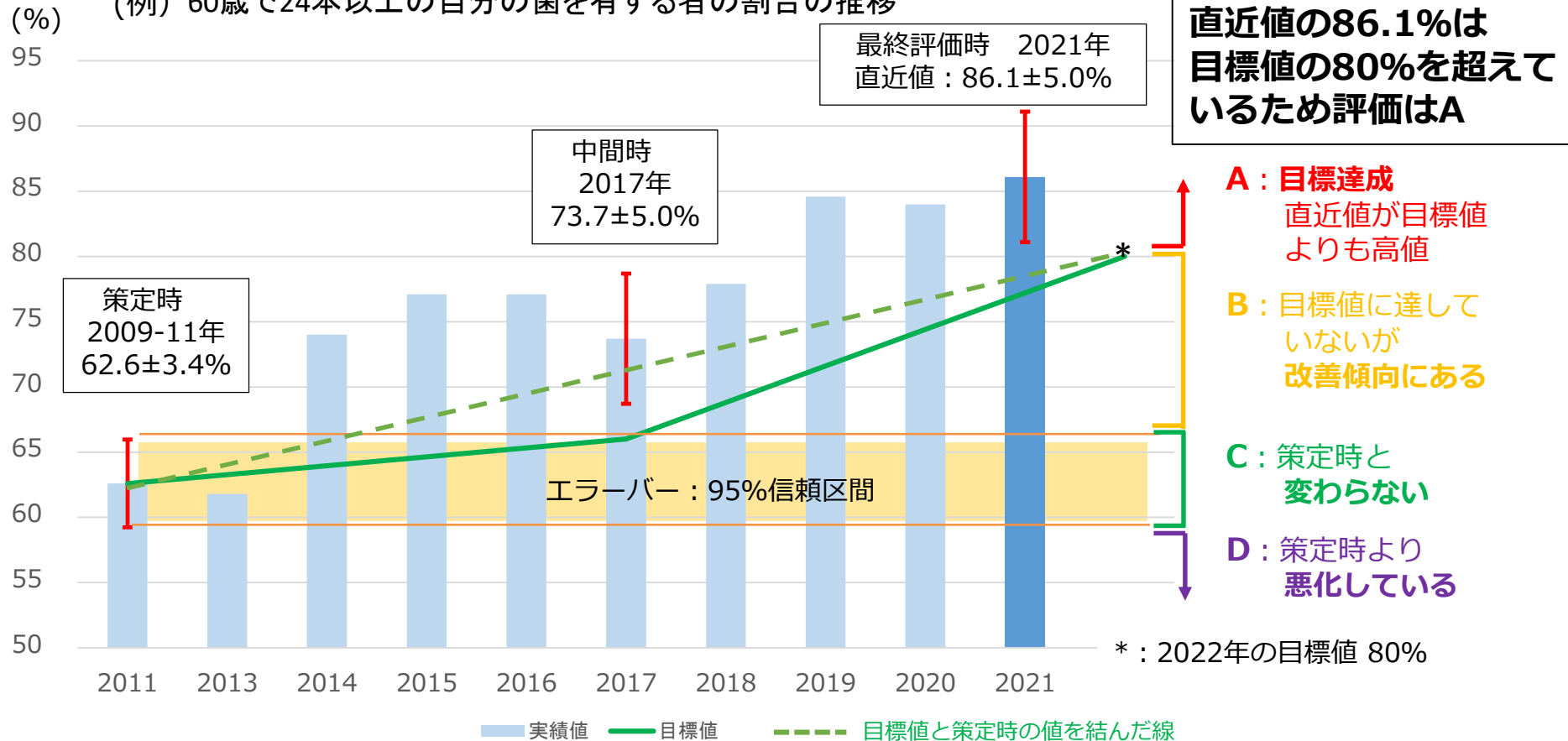


「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」についての分析方法

(例) 60歳で24本以上の自分の歯を有する者の割合の推移



補足1：「B」の判定方法について、直近値が目標値を超えていないが、改善傾向にありかつ、直近値が目標値と策定時の値を結んだ線（緑色の点線）よりも上にあり目標年度に「A」となりそうなものを「B」とし直近値が緑色の点線よりも下あり目標達成が危ぶまれるものを「B*」と評価する。

補足2：「B」「C」「D」と判定する際には、直近値を策定値と比較して有意な差が認められるかを統計学的検定も行って検討する（有意水準5%、片側検定）

「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」についての分析に基づく評価方法

目標			指標	A～D	点数	最終評価	
基本目標1 歯科疾患の予防							
ア	健全な歯・口腔の育成	a	3歳児でむし歯のない者の割合の増加			①各具体的指標の合計より平均値を算出する。 ②平均値は、小数点以下五捨六入で求める。 ①②より 基本目標1 の最終評価	
イ	口腔状態の向上	b	12歳児でむし歯のない者の割合の増加				
		c	14歳で歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少				
		d	17歳で歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少				
ウ	健全な口腔状態の維持	e	20歳代で未処置歯	【評価方法】 それぞれの項目についてA～Dの4段階で評価する。 A=5点、B=4点、C=3点、D=2点と換算する。			
		f	40歳代で未処置歯				
		g	20歳代で歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少				
		h	40歳代で進行した歯周炎を有する者の割合の減少				
		i	40歳で喪失歯のない者の割合の増加				
エ	歯の喪失防止	j	60歳代で未処置歯を有する者の割合の減少				
		k	60歳代で進行した歯周炎を有する者の割合の減少				
		l	60歳で24本以上の自分の歯を有する者の割合の増加	A	5		
		m	80歳で20本以上の自分の歯を有する者の割合の増加				
基本目標2 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上						上記同様 基本目標2 の最終評価	
オ	口腔機能の獲得	n	3歳児での不正咬合などが認められる者の割合の減少				
カ	口腔機能の維持・向上	o	60歳代で咀嚼に支障がない者の割合の増加				
基本目標3 定期的に口腔保健サービスを受けることが困難な者に対する歯科口腔保健						上記同様 基本目標3 の最終評価	
キ	定期的な口腔保健サービスの推進	p	障がい児でかかりつけ歯科医を持つ者の割合の増加				
		q	障がい者でかかりつけ歯科医を持つ者の割合の増加				
		r	介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率の増加				
		s	障がい者（児）の入所中の施設での定期的な歯科検診実施率の増加				

①各具体的指標の合計より平均値を算出する。

②平均値は、小数点以下五捨六入で求める。

①②より
**基本目標1
の最終評価**

上記同様
**基本目標2
の最終評価**

上記同様
**基本目標3
の最終評価**